



神於山シャーフの森から、今年もよろしくお願ひ申し上げます。



チーム神於山の有志で作成された門松

1. 活動日時：2014年1月10日(土) 10:00~15:00

2. 参加者：8名 (現役GS：3名 社友GS：5名)

3. 活動内容

- ・2015年々初の活動として、基地に隣接している沢筋の植栽地の間伐と、3月に開催される岸和田・あかりイベント「燈城」に展示する竹燈籠用の竹の見極めに取り組みました。
- ・間伐は、基準にする木を決め、そこから株間4~5mを目途に残す木を選び、目印の紐を結ぶことから始め、自然木のモミジ辺りまで済ませることが出来ました。
- ・竹燈籠用の竹の見極めは、見極めだけでなく、70個作る予定の燈籠の内半分は取れそうな竹を2本伐って基地に運び込むという計画以上の成果を上げることが出来ました。
- ・参加頂いた8名のGSの皆さん、お疲れ様でした。
- ・フクロウの営巣は確認できませんでしたが、昨年も確認したのは3月に入ってからでしたから、引き続き観察を続けます。

4. 今後の活動

- ・1月24日のチーム神於山の活動は、今回の続きで沢筋の間伐に取り組み、間伐した木を薪に加工します。
- ・2月14日の定例活動では竹燈籠作りを行う予定です。

■ 沢筋の植栽地の間伐ー1 間伐は、伐った木の処理を含め、全体の作業時間を読みながら進めるのがポイントです。



直径10cm程度ですから、鋸で一気に伐採しました。



枝掛りに注意

- ・沢筋の植栽は、谷間で日当たりが悪い為全体にひ弱ですが、それでも植えた当時は高さが70cm程度だったものが10m近くに、また幹回りも根元近くで10cm程度に育っているものが有り、8年間の時間の経過を実感しました。
- ・間伐は、健康な森づくりには欠かせないことは判っていますが、複雑な気分です。
- ・伐った木は、杭や薪に加工して活用します。

■沢筋の植栽の間伐—2

作業は、自然に役割分担が進み、スムーズに進みました。

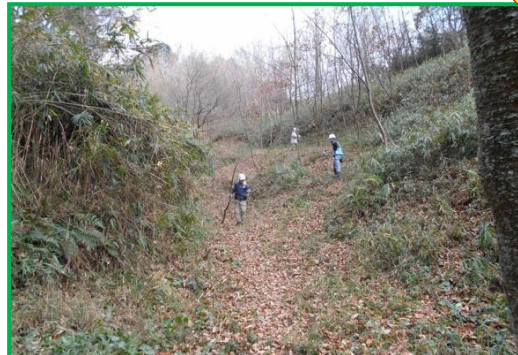


切り口を広げる押し役と伐り役。

・三連休の初日で、参加者は 8 名と少なめでしたが、ベテラン揃いで作業はスムーズに進みました。



枝が張った木は、その場で太い枝を落とし、運べるようにします。



切った木は、基地に引き下ろします。



基地では細い枝と、太い枝・幹に仕分けします。



間伐した木の太い枝と幹をバックに。 お疲れ様でした。



細い枝の山。切り揃えて粗朶にします。

- ・粗朶は、現地採取が容易で、いずれは腐食し環境面での負荷が少ないことから、暗渠・土留材等の土木建設資材、水中に沈めてエビなどを誘い込む漁礁材等、利用価値は広いですが、需要が少ないのが残念です。
- ・神於山では、カーボンニュートラルの材として、当面焚付けに使います。

after & next



間伐が終わり、周りがスッキリしたモミジの自然木。



1月24日に間伐する沢筋の植栽地。

■竹燈籠の竹の見極め

竹燈籠用の竹は問題なく伐り出せますが、竹林の間伐が必要なことが判りました。

竹燈籠の竹の伐り出し

2月14日には、同じ場所からあと2～3本伐り出します。



伐る竹を作業道に誘導する為、先ずロープを掛けます。



声を掛け合いながら竹に鋸を入れます。



伐採成功。燈籠に使える部分を基地に運びます。



基地に運んだ燈籠用の竹（青いもの2本）



間伐が必要なエリア

上部の全伐エリアの残りと、下部の谷あいのエリア（写真）が間伐対象になります。



下部の谷あいのエリア。古竹と新竹が混在しています



節の黒い古竹が間伐の対象です。